



複線化・電化も着々と……

## 国土保全事業の促進

毎年雨期に発生している水害の解消・湿地帯の改良等のため、加勢川改修を促進する。

また、矢形川、赤井川下流は、加勢川御船川、矢形川に挟まれた常習洪水地帯であるので、洪水、洪水防除を目的とする天君防災ダムの建設を促進する。

## 農業の近代化

平坦水田については、水稲収量引上げ、一毛作田の二毛作化等のため、用排水施設、区画整理その他基礎条件の整備

をはかる。平坦畑作地帯については、そさい、果樹、特用作物、中山間地帯は果樹、山間地帯は、果樹(くり、うめなど)、高冷地をさい、特用作物に重点をおき、基礎条件の整備、加工場その他施設の整備をはかる。

## 八代

八代は、新産地域における南部の開発拠点であって、港湾、用地、用水等の工業立地条件に恵まれ、従来から、本県工業の中心地として既にかんりの集積を持っているので、これらの既存工業の発展と臨海工業その他の諸工業の誘導をはかり、さらに八代港の整備と臨海埋立地の造成の進展と相まって、臨海工業地帯としての開発を進めるとともに、工業開発の進展に即応し、八代市の市街化計画を早急に確立し、都市施設、生活環境施設の整備を図る。

なお、周辺地域においては、工業地帯の背後地として発展するよう住宅、文教、厚生などの生活環境施設を整備する。

次に本県の穀倉地帯である八代平野については、より生産性の高い農業地帯とするため、八代平野の約六千八百〇〇畝を対象とする八代平野土地改良事業を推進する。これらを重点として、スケールの大きい工業田園都市としての八代市及びその周辺地域の開発を進める。

## 八代臨海工業地帯

昭和四十年年度から着手した国営八代平野土地改良事業と共同で、球磨川を水源とする取水堰及び導水路を築造し、工業用水として、五・五五m<sup>3</sup>/秒を取水し既存企業を中心とする内陸部と新規に造成を進めている臨海工業用地に給水しようとするものである。

## 工業用水道

昭和四十年年度から着手した国営八代平野土地改良事業と共同で、球磨川を水源とする取水堰及び導水路を築造し、工業用水として、五・五五m<sup>3</sup>/秒を取水し既存企業を中心とする内陸部と新規に造成を進めている臨海工業用地に給水しようとするものである。

## 工場用地

さきに農林省から、八代港干拓地の転用を受けた外港背後地の二五四万m<sup>2</sup>の用地を造成することとし、うち八一万二千m<sup>2</sup>は、港湾整備計画に基づく八代港の浚渫土をもって造成する。残りの用地については、できるだけ企業立地の具体化に

## 三太郎新国道のこの頃

国道三号線の改修、ことに三太郎の難所を一挙に解決した八代以南の改修・舗装は、経済効果の増大、経済圏の拡張に非常な期待が寄せられたが、結果は予想をはるかに上廻り、かつ想像以上に急テムポである。果樹の輸送事情を例にとれば、改修前には鉄道九二%に対し、三太郎新国道のこの頃八%に過ぎなかつた。陸上輸送が、改修後は四二・六%と五倍の伸び方である。通過車輛数も四十年四月一、七八〇台から四十年四月三、〇五〇台へと倍増を示し、人的に、物的にその動きはいよいよ活発である。

「従前ノ土地ハ耕地ノ区劃小ニシテ其形状不正ナルヲ以テ、牛馬糞ヲ行フニ便ナラザリシカ整理ノ予定ニ区劃一一反歩トナシ、尚糞必要ニ応ジニ区劃一一反歩ト得ルヲ以テ、器械ノ応用、牛馬糞其他一般ニ努力ヲ省クコトナリ。」これは、明治四十一年に当時の上益城郡白旗村白旗の農民たちが実施した。二九畝に及ぶ耕地整理の趣意書の一節である。

## 新しいアイディアで推進

六〇年後同じ甲佐町白旗の糸田堰土地改良区が、一四〇畝、県下最大の規模では場整備事業にふみ切ったきっかけは、「農業機械導入」とそれによる「省力化」であった。遠い祖先の先見と行動力に改めて驚かされる。事務局がスタートしたのが昭和三十八年八月。規模が大きいために、村ぐるみ一

## 甲佐町白旗のほ場整備

新産地域南部の開発拠点として、当面既存工業の発展とあわせて、八代外港地区を中心として化学、機械金属、食品加工、木材加工、紙パルプ、窯業などのうち、港湾利用度の高い工業の誘導をはかるとともに、さらに港湾臨海埋立地などの拡充整備と相まって、近代的な臨海性工業の開発を進める。

## 交通施設

港湾 さる四月一日、開港指定を受けた八代港については、新五カ年計画の線に沿って、貿易工業港として、外港地区にマイナス一〇岸壁二バース、マイナス九岸壁一バース、マイナス七・五岸

四十八年度完成の予定。ただし、臨海部の専用施設について、企業の進出状況を勘案して実施する。

## その他

このほか、住宅、住宅用地、上水道、下水道、教育、厚生、通信など、生活環境施設についても、工業開発の進展に即応して整備を促進するとともに、公害防止についても、土地利用ならびに企業の誘導にあたり特に留意する。

## 八代平野土地改良と氷川総合開発

### 八代平野土地改良

八代平野の約六千八百〇〇畝を対象として総合的な土地改良事業、すなわち用排水の分離を前提とする用排水改良で、土壌改良、区画整理等を施行し、地域農業の近代化、生産力増強をはかろうとするものである。(二六頁参照) なお、先に工業用水道のところで記したように、八代臨海工業地帯の工業用水確保のため、農工共用施設を国、県で共同施行する計画である。

### 氷川総合開発

泉村和小路地点に予定されている県営ダムを中心に、治水、発電、上水道等流域一帯の総合的な開発をはかろうとするものである。(二六頁を参照)

## 農業の近代化



豊かにみよるみかん園……

八代平野土地改良事業等と農業構造改善事業を基幹事業として、農業経営の基盤を整備し、基幹作物としては、平坦地帯に米、い草、そさい、これに畜産を配し、山麓地帯、中山間部にオレンジペルトを形成し、山間部には農村等の開発につとめる。なお、現在農林省において直轄調査中の不知火干拓の実現について積極的に推進する。

## 芦北

この地区は、県の最南端に位し、不知火海に面する丘陵地帯である。従来、三太郎の峻険にはばまれた交通条件の制約から、やや封鎖的な